みんなで

　　新・のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　3　年　4月　20日　　NO.1

八木北の空

　数えると12年ぶりに校区に戻ってきたことになります。21年前の朝、国道を走っていると脇道にそれて進むと前任校。まっすぐ高架を上ると転勤先。その分かれ目で、寂しさをこらえて、アクセルを踏んだ昔を思い出すとともに、この春にまた同じような感慨にふけっている自分自身をおかしく思ったりします。

感染症拡大で例年通りの教育活動がままならなくなって随分時間が経ちました。マスク姿も日常になっています。

閉塞感のなか、少しでも明るい話を届けようと、この欄をお借りして、ぽつぽつと文章をつづっていきます。

一年間、おつきあいください。

学校の西側の門から下った所の交差点で見守り活動をしていた朝。

交通指導員の方が警察の人とお話をしていました。遠くには覆面のパトカ－が取り外し自在の赤いサイレンを光らせながら止まっていました。

その方々に挨拶をすると、なんと警察の方は、岸和田署の署長さんで隣にいたのが副署長さん。びっくりしました。

またある朝。同じ交差点で立っていると一台の軽トラックが私めがけて幅寄せしてきます。『危ないな』とすごみかけた時、車の中で必死に窓を開けるためレバ－を回している姿が。

随分前の卒業生で15年ぶりぐらいの再会でしょうか。嬉しくって車の中に自分の体を投げ入れ、その卒業生の頭や顔をなでなで。

桜の花が散って、別ればかりを噛みしめる時間が長かっただけに再会の喜びはひとしお。

立ち去った卒業生の顔を思い出しながら、『おっさんになったなぁ』としみじみしていると、おじいちゃんに変わった自分自身の姿が鏡の中に。

出会いと別れと再会を繰り返しながら、時間は動いているのですな。